

「いけばな 小原流展～秋色のおもてなし」に 華道部が出品しました！

10月11日～16日に新宿高島屋で開催された「いけばな小原流展～秋色のおもてなし」に華道部が作品を出品しました。以下は部員による感想です。

私たち華道部は、昨年に続き小原流展に参加させて頂きました。そこで、少し視野が広がるような経験をさせてもらえたと思っています。そうはいつでも、最初は文化祭準備で忙しく、視野が広がるなんて偉そうなことを言えるような状態ではありませんでした。テーマの『秋』をもとに考え始めてみても、ありがちな表現しか思いつかずお先真っ暗だったのです。ですが面白いことに、部員との話し合いはそれぞれ個人の視野をどんどん広げてくれ最後には1つの思いにまとめることができました。その私たちの思いが《アンダンテ》です。音楽用語で「ゆっくり」を意味するこの言葉によって、私たちの個性と、秋のゆっくりした移ろいを表現できるのではないかと思ったからです。ですが、少し先が見えたと思った矢先、今度は、作品制作における難しさに気付かされました。小原流らしい軽やかさを単一花材で表現しつつ、地味にならないように作品をつくることは予想以上に難しかったのです。しかしやはりそこでも、実際に部員に作ってもらい部員の世界観を知ることは一人で気づけないような視点を持たせてくれていたと思います。そして最後には、「モダンだけれど秋らしい赤色のアクセントを持つ作品」を作り上げられ満足しています。

今回、学年を超えて、話し合いを重ね1つの思いにしていくことの大変さを痛感しましたが、得られることもとても大きく、良い思い出になったと思います。また、華道の世界においても一人で作品を作るのではなく、部員で1つの世界観を生み出すことは良い刺激になったと思います。

またこのような機会に恵まれ華道部をもっと皆さんに知って頂けると嬉しいです。

